

武州 みたけ

第四十四号



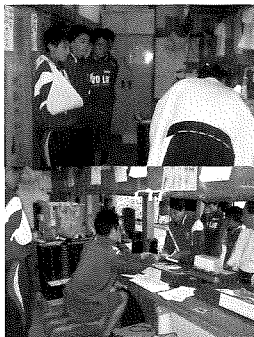
職場体験

十月二十日から二十四日までの五日間、青梅市立西中学校の二年生十六名による職場体験が行われました。

毎年数名の学生が、社で行う様々な神主の仕事を経験し、作法また歴史などを学んでいます。

体験記

「神社の説明と広前の体験」



言葉遣いに苦労しました。お守りをお渡しすると、『有難う』の言葉がとても嬉しかったです。

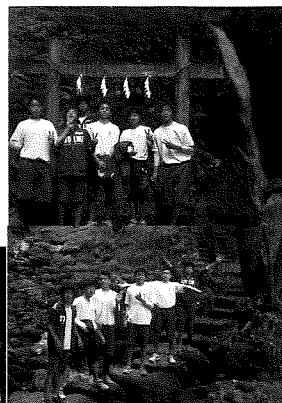
「お砂の袋つめ」



ツブツブの砂が、振るいできれいになっていくのが気持ちいい！丁寧作業しました。

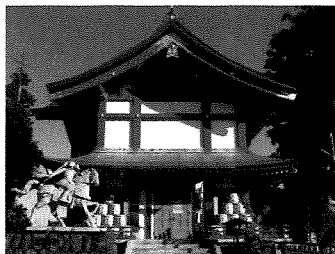
「宝物殿及び参道階段清掃」

宝物殿はとても寒く、冷たく大変でした。320段の階段清掃は長く大変だったけど、参拝者に『綺麗だねー、お疲れ様。ありがとうございます』と声と掛けられ、嬉しくも綺麗にしたいと思いました。



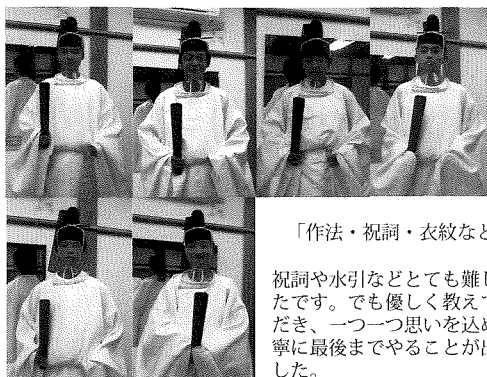
「ハイキング」

ちよっと息抜き。御岳山の自然を味わいました。



「作法・祝詞・衣紋など」

祝詞や水引などとても難しかったです。でも優しく教えていただき、一つ一つ思いを込めて丁寧に最後までやる事が出来ました。



神社での仕事は地味なのに大変な仕事が多かったです。しかしどの仕事もやりがいがあり、達成感がありました。神様がいらっしゃるところなので、とても神聖な感じがして、良い緊張感がある仕事だと思いました。どんな仕事も真面目にやれば成果が出るということを学びました。努力することの大切さ、目上の人に対する言葉遣いなど、今後の学校生活に生かしていきたいです。有難うございました。

表彰

当社では十数年前から『浦安の舞』を神前に奏上しておりますが、この度舞姫の小学五年生・鈴木凜香さんが、「伝統・文化の継承活動を継続的に実践した生徒」として東京都教育委員会より表彰されました。
(平成 27 年 2 月 14 日 都庁にて)

「都庁での受賞に際して」

母 鈴木真由美

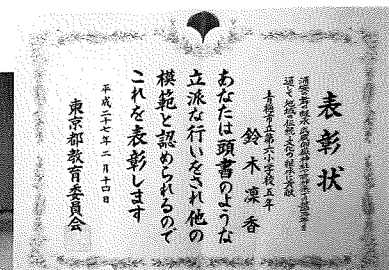
この度娘 凜香が、天野先生より数年に渡りご指導頂いておりました「浦安の舞」について、東京都庁にて表彰される機会を頂きました。

「私はいつあの舞台に立てるの？」

凜香が三年生の時の言葉です。目の前には、新神楽での舞台上、二歳上の幼なじみ二人。綺麗な装束を身にまとい、美しい化粧をほどこした二人が、娘には本当に眩しく、同時に羨ましくもあったでしょう。

二年生の時、小さな足袋を持って初めて神社へ練習に出掛けたあの日から、少しでも上手に舞いたいという娘の想いは、あの新神楽の夜に見た美しい一人の姿に肩を並べたい一心であったと思います。そして五年生になった今年、夜神楽で初披露の機会を頂き、念願であった新神楽の大舞台も努めさせて頂きました。

これから娘の後に続く歳下の女の子達の良きお手本になれるよう、初心を忘れずご指導を謙虚に受け止め、お稽古に励んでもらいたいと思います。





式年大祭(二万円以上・敬称略)

平成二十六年九月一日

平成二十七年一月三十一日

百万円以上

青梅市

須崎 裕

五十万円以上

川崎市高津区

高橋 邦禎

十万円以上

坂戸市

吉野 勝利

八王子市

八王子市

八木岡 照義

五万円以上

西東京市

笹森 俊文

立川市

日本美術刀剣保存協会
東京多摩支部

川崎市高津区

井上英子・文枝

瑞穂町

有限会社金咲通産

大田区

株式会社ティエラ・リサ・セシル
代表取締役 本道真智子

狭山市

戸田 光彦

八王子市

三箇 龍仁

三万円以上

大田区

上原 純子

新都区

島倉 峰雄

青梅市

奥多摩美術刀剣保存会

町田市

岡本 幸男

青葉区

相良 浩

板橋区

高井 基

東大和市

猪田 清

清瀬市

川合 悦子

八王子市

本田 三郎

二万円以上

あきる野市

銀座ダックススタックス

中央区

増戸講 宮野林治

日の出町

株式会社 島田造園土木

一万円以上

杉並区

波辺寛・喜代子

東村山市

和智 弘行

東村山市

小町 幸生

多摩市

ふじみ野市

中村 浩義

小森 靖久

横濱市神奈川区

あざみ野市

高野 源一

飯能市

宿野 益三

一万円以上

武蔵村山市

有限会社サンペアー 進藤喜一

川崎市中原区

井上 郁行

さいたま市大宮区

深井 敏子

さいたま市見沼区

伊藤 美幸

長野市

関 千佳

青梅市

平岡 君子

羽村市

渡邊 真理

豊島区

吉野 元裕

千葉県印西市

村田 東吾

北海道宗谷郡猿払村

平良 真理・太一

八王子市

清水 泰

八王子市

森田 順一

所沢市

中村 章

東久留米市

西海 茂夫

八王子市

岡 善彦

八王子市

木崎 勝

八王子市

河邊 和弘

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 実史

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

八王子市

市川 良子

奉納・営繕資金(二万円以上・敬称略)

平成二十六年九月一日

平成二十七年一月三十一日

十万円以上

埼玉県富士見市

高橋 寛次

五万円以上

青梅市

株式会社荒井電業社

三万円以上

山梨県市川三郷町

代表取締役 荒井清一郎

一万円以上

西東京市

有限会社丸井紙店 有泉誠一

青梅市

瀧 柱郎

一万円以上

朝霞市

内田 栄二

日高市

新井竹芸

練馬区

大泉幸西講 講元 加藤友久

新座市

並木 利男

新座市

田中 誠治

新座市

高野 一夫

東久留米市

五十嵐 剛

太々神楽奏上

近年太々神楽奏上が少なくなっており、太々神楽はとなたでもご奏上頂けますので、皆様のお申込をお待ちしております。

平成二十六年九月一日

平成二十七年一月三十一日

青梅市

カンタンを聴く会

昭島市

御岳山観光協会

青梅市

拝島坂下講中

青梅市

御岳登山鉄道株式会社

青梅市

静山会

義援金の御礼

昨年九月二十七日(土)午前十一時五十三分頃、木曾御嶽山の水蒸気噴火による戦後最悪といわれるほどの犠牲者がでる痛ましい自然災害がおこりました。災害に遭われた方々の未だに消えぬご心痛はいかばかりかとお見舞い申し上げます。

当社ではこの災害を受け、皆様方に義援金をお願いいたしました。

噴火直後より十二月末までの間に、二十一萬一仟二百七十三円もの心温まるご支援を賜りました。

平成二十六年暮れに、当社からの義援金を含め、「木曾御嶽神社」へ送金いたしました。

皆様のご支援とご協力に感謝申し上げます、報告と致します。

御岳山の行事

平成二十七年

一月 一日 元旦祭

三月 三日 太占祭

三月 三日 大口真神社祭

二月 三日 節分祭

二月 初午 稻荷社祭

三月 八日 春季大祭(祈年祭)

四月 二十一日 奉納俳句奉告祭

四月 下旬 産安社祭

五月 二十九日 奉納剣道大会

五月 七日 日の出祭(宵宮)

五月 八日 日の出祭(神輿渡御)

五月 十五日 男具那社祭

六月 二十一日 大口真神社祭

六月 二十一日 神楽と雅楽の一般公開

六月 二十日 一日修行体験講座

七月 三十日 夏越大祓

七月 十八日 レンゲショウまつり

(九月二十三日)

九月 十八日 新神楽

九月 二十日 滝行体験講座

九月 五日 カンタンを聴く会

九月 十二日 新神楽

九月 二十六日 修行体験講座(泊)

九月 二十七日 大口真神社祭

九月 二十九日 大口真神社祭

十月 十一日 流筒馬祭

十月 十一日 江戸みたけ参り

十一月 八日 神楽と雅楽の一般公開

十一月 八日 秋季大祭(新嘗祭)

十二月 二十三日 未社祭

十二月 二十三日 みたけ山トレイルラン

十二月 二十三日 天長祭

十二月 三十一日 大祓

六月~十一月 第四次曜日 夜かぐら

毎月 八日 月次祭

毎日 日供祭

●●講中を訪ねて●●

東久留米市御嶽神社 神山講

講元 並木 弘國

東久留米神山講（現在の金山町・神宝町）が御嶽神社に豊作祈願に参拝するようになったのは、今から六十年ほど前にさかのぼります。六十数年間、東久留米の農家の心の支えになってきたのが御嶽神社でありました。現在の地元、神山講は四十五軒あり、今も昔と変わらず講中の方が代参者となり、地元で採れた野菜穀物をもって参拝に行っております。以前、晴れ続きで雨が降らず、野菜の収穫ができなくて困ったことがありました。その折御嶽神社に参拝に行き、御嶽山の天狗岩の下に七代の滝から水を持ってきて地元、御嶽神社の池に入れて雨乞いの祭りをいたしましたところ、一週間のうちに雨が降ってきて講中の皆様と大いに喜んだという逸話もございました。

十二月冬至の日には、御嶽神社講の皆様で星祭をおこなっています。そこでは、新年度御嶽神社の代参者となります人のくじ引きをいたします。くじで当たりました四名の方が参拝のため山に登りお札をいただいできます。昔は泊まりがけの大掛かりで参拝しましたが、今は交通の便が良くなった為、その日のうちに御嶽神社神山講中の方々にお札を納めることができるようになりました。

最近では二十六年一月十九日に御嶽神社の初講に参ったところがございます。

現在、当地域でも宅地化が進み、新しい住宅が建ち並び、農地は減り、見える景色も随分と変わってしまいました。時代の変化に伴い、価値観も多様化し、伝統行事を受け継いでいる地域も少なくなってきたように感じます。しかし、このような「講」を

通し、豊作を祈る気持ちや、地域の農家の方々のつながり、絆を実感し共有することは日本人として昔も今も変わりはないものと思います。大震災や大雪の記憶も新しい中、普段から地域の繋がりの原点を大切にすることが見直されております。豊作を祈る「講」ではありますが、地域の繁栄・安定を願うものでもあります。これからも地域の講の皆様と協力しあい、御嶽神社へ参拝にまいりたいと考えております。

所在地 東京都東久留米市
講員数 四十五名
主幹宮司 片柳 政光

（この欄の本文は上記の右欄と重複するため省略）



上富上組講

講元 鈴木 理市

私共の地域は、川越藩主・柳沢吉保公による三富新田開拓の地であり、江戸元禄より三百二十余年、開拓者精神を守りつつ先祖代々の生業である農業を営み暮らしています。



上富には上組講、中組講、下組講があります。御嶽講は、五穀豊穡・家内安全をお守りいただくのだと先代から聞かされており、また上富一区農家組合と両輪の関係をもち、毎年四月十日には、農家組合の総会と講の御日待を行っております。そこでは、それぞれが情報交換のできる大切な場となっております。昭和五十二年と平成九年には、御師・秋山さんのお世話になり太々神楽も奏上しました。

新年会、春の代参、有志の参拝、秋には御師・秋山さんの講中回りとあるなかで、講員各位御嶽山を崇拜する心は変わらず、講の行事を皆楽しみみにしています。

所在地 埼玉県三芳町
講員数 四十七名
主幹宮司 秋山 佳久



私が初めて武蔵御嶽神社さまにお参りをさせて頂きましたのは、もう何年も前のことになりました。それ以来折に触れ、様々な思いを胸に抱きながらお参りをさせて頂いておりました。

数年前、健康診断で病が見つかりましてから、その思いはより深くなっていました。お山まで登らせていただくことが大変ありがたく感じるようになったので、時には病への不安を抱くこともございましたが、「ご神前に座らせていただくだけで、内側が静かに落ち着き、心強く感じるのです。」

おかげさまで、何度かの入院の後病も治りました。その事のありがたさに加え、病の間ずっと心の支えとさせて頂きました神さまに、何か自分なりに感謝の気持ちを伝えたいという思いが生まれて参りました。そのような時たまの縁で、天野先生に浦安の舞をお教え頂けることになりました。平成二十六年十二月八日の月次祭の後、ご奉納させて頂くことができました。

正直わたしのような一般人の間が、浦安の舞を習わせていただけるとも思っておりませんでしたし、拝殿にてご奉納させて頂けるとは夢のようなことだと思いました。天野先生にはお忙しい中お時間を作ってくださりご指導くださいました。私自身もスタジオをお借りして、一生懸命一人でお稽古をいたしました。

本番当日は大変緊張致しました。しかし、舞に集中し、終わりが近づいてくると、「神さまありがとうございます」という思いと、「(もつと舞っていたい)」という思いで涙がにじみでそうになりました。

ご奉納を終えますと、心が素直で軽くなり、とても穏やかになりました。心が洗われるとは、まさにこういうことなのだ、と思いました。こうして無事にご奉納させていただきましたことができましたのも、須崎宮司さま、天野先生をはじめ、武蔵御嶽神社の神職の先生方、そしてお山の皆様のおかげと存じます。誠にありがとうございました。これからも信心の心を深めて、お参りさせていただきたいと思っております。本当にありがとうございました。改めまして、心より御礼を申し上げます。

浦安の舞ご奉納を終えて

川合悦子



神前結婚式

早秋の朝、雲一つ無く晴れ渡る空の下、深山の神々の祝福を受け、二人は新たな門出を迎えました。遮られること無く眼下に広がるどこまでも続く関八州の輝く大地に、共に歩む二人の未来を重ね、一歩ずつ歩き始めます。

山頂の神社への道、両親は白無垢姿の新婦の手を引き一歩先を登っていきます。先を行く親の背に二人はこれまでの生活を重ね感謝で胸が熱くなり、両親はその握る手に子の成長を感じ石段を踏みしめます。

そして、新郎と手を取る新婦の笑顔を見て両親はその手を離しました。



平成26年9月23日 11時執行
山本家・小高家 結婚式

親の背を見て子は成長し、神を感じ感謝して人は育つてゆく。

神前結婚式とは、神と共に生きる日本人のアイデンティティーそのものなのです。

霊山と称えられる武州御嶽山、その神々のよりお近くで、多くの祝福を授かりながら日本古来の式を挙げる、その喜びは一生心に刻まれる事でしょう。

新郎：真吾さん

御嶽神社にて結婚式を挙げ、一番印象深かった事は、本当に偽りない厳かな雰囲気の中で、式を挙げられた事です。妻の地元でも頂き、大変式の方々に支えられました。思い出深いになりました。また、御嶽山にて代々受け継がれてきた方々による伝統的な式で、生の雅楽演奏が式をより格式高くして、出席した家族・友人も感動しておりました。本当に有難うございました。

新婦：晶子さん

生まれ育った御嶽で、又小さい頃から馴染みのある御嶽神社で結婚式を挙げる事ができて、本当に嬉しかったです。台風も近寄れず、最高の天気でのこの日を迎えることができたのも御嶽神社のおかげです。沢山の人の支えられて、人生の門出を迎えられた感謝の気持ちでいっぱい입니다。

相談受付は、お電話にて...

婚礼の儀

- 齋主 一人奉仕
~三人奉仕
- 伶人 一人奉仕
~三人奉仕
- 典儀 (ご案内) 一人

※控え室はございますが、和装等のご用意はありません。

衣装・着付・ヘアメイクについての紹介は可能です。ご相談下さい。

石段奉納

この度、神社本殿廻り摂社・末社をお参りするための入り口にある階段を、神奈川県秦野市の大津 昇様のご奉納により整備され、平成二十六年十月二十日、午前十時より石段竣工式を執行いたしました。

平成九年から始めた境内石段整備ですが、崇敬者様の篤い御信心と、御寄進をいただきまして、お陰様であと僅かで終了するところとなりました。

皆様のご厚情に感謝申し上げます。

現在二年後の酉年式年大祭にむけて漆・彩色塗り替え事業の御協賛を賜っているところでございます。今後とも格段のご協力ご支援をお願い申し上げます。



日の出祭

山伏の入峰儀式が発祥とされる日の出祭。当社で最も格式の高い祭典で一年の無病息災・家内安全をお守りいたします。

このお祭りでは、お供として行列に参加される供奉者、神輿を警護する鎧武者、健やかな成長を祈念する稚児を募集しております。

大勢の方のお申込をお待ちしております。

五月七日

宵宮

午後八時

八日

本祭・行列出発

午前十時

供奉料 三千元・五千元・一万円以上

鎧武者・稚児 供奉無料 鎧持参加可能

※詳しくはお問い合わせ下さい。



修行体験講座

毎年多くの方々にご参加いただいております修行体験も今年で十五年を迎えました。

高潔なる山の懐に抱かれる深山から湧き出でる清き水にて、日々の罪穢れを祓い清め、新たな自分と向き合えるでしょう。「げがれ」とは「氣枯・希枯・食涸」を表し、生きるために必要な意思や思い、食への力などが弱まっている状態を指します。御嶽大神のご神徳を頂き、明日への第一歩を強く踏み出しましょう。

今年より一泊二日の講座を一回とし、山駆けと滝行を一日で行う講座が出来ました。是非ご参加下さい。

一日修行体験講座

日 時 六月 二十日 (土)

開催人員 三十名まで

費用 一万円 (申込金・五千元)

滝行体験講座

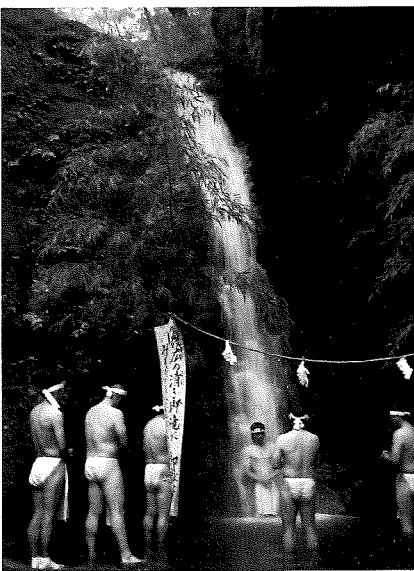
日 時 七月 二十日 (月)

費用 五千元 (申込時全額振込)

修行体験講座

日 時 九月 二十六日 (土)・二十七日 (日)

費用 一万五千五百円 (申込金・五千五百円)



第四十二回 武蔵御嶽神社奉納俳句入選作品

応募総数 六百七十句

選者 金子千侍

特選

一席 春運ぶ巫女の白足袋赤鼻緒 新座市 長谷川 栄
 二席 茅葺きは空中花壇百合咲けり 松戸市 林 民江
 三席 鶯の輪の真下こたつこの御師の宿 日の出町 渡邊 敏雄
 四席 土壁に暖簾の様な吊し柿 青梅市 原島 康典
 五席 講中の碑は黒御影百合写す 狭山市 古谷 彰宏

秀逸

巫女の舞月に涼しき鈴鳴らす 東久留米市 小林 千草
 桑の実や御嶽山は雲を飛ばしをり 多摩市 橋本 絢
 神域の空狭くして秋高し さいたま市 土肥 寛子
 東京の貴重な緑 御嶽山 世田谷区 小森 葆子
 玉堂の散歩の径に河鹿聞く 狭山市 古谷 多賀子
 孫悟空乗ってきそうな夏の雲 青梅市 関根 康子
 霊山の幸もて御師の夏料理 中野区 辰巳 行雄
 邯鄲の静寂深むる夜の宿 羽村市 杉原 功一郎
 冬の香の喉落ちてゆく宿の水 中野区 志治 美世子
 ろう梅の一輪つまむ鳴るごとし 松戸市 寛 隆代

佳作

山腹に花野抱ける神の山 青梅市 青山 奈重
 夏空に白木の鳥居風匂ふ 羽村市 小澤 弘子
 新緑やリュックつぎつぎ御嶽山 多摩市 立川 明朗
 硝子戸を揺する太鼓や寒祝詞 多摩市 萩生田 芳孝
 神宿る御師の山なり星月夜 八王子市 岡 光子
 西御岳東に筑波初詣 あきる野市 田野倉 訓郎
 幽谷の黒き深まり冬来る 調布市 水野 進子
 奥多摩の溪谷に食ふ冷奴 千葉市 本多 悠夫
 御師の里こそりて太き軒氷柱 青梅市 津布久 信雄
 寒雀ころがるごとく山の道 川口市 加田 日登美

選者吟 満開の桜道行く浮力生れ

奉納俳句選評

特選一席

春運ぶ巫女の白足袋赤鼻緒 長谷川 栄

清楚、初初しい、白衣袋の巫女。楚々と社殿へ向かつて行く。白足袋の真紅の鼻緒が、暖かい春を運んで来たようだと、作者の詩心はしつかりと捉え、美しい巫女の姿を、春を連れて来る女神、佐保姫と重ね合わせたのでした。

特選二席

茅葺きは空中花壇百合咲けり 林 民江

御師のお家は数百年を越えた厚い茅葺屋根、山の土埃の積った屋根は、肥沃の畑となつていのです。色々な花の種が芽吹いて正に百花繚乱、中でも抜きんでたま白い百合は、この天空花壇の覇者のようでもあります。

特選三席

鶯の輪の真下こたつこの御師の宿 渡邊 敏雄

空に鶯の輪。その下に御岳山。その下に御師のお宿。その下に更に御師が炬燵に蹲っている。閑かな、平和な、冬の御岳山。天から地に向つて貫く立体像。一幅の絵の様であります。

特選四席

土壁に暖簾の様な吊し柿 原島 康典

皮を剥いた柿。十個位を一本の縄に縛り付け、これを軒先に吊した横棒に引つ掛け吊します。これを何本も吊しますと、柿暖簾のようになります。例へば、横棒を何本も渡して柿吊し縄を引つ掛けると柿襖などともいいます。本句の趣は、吊し柿の背景「土壁」。なんとも云えない情景です。

特選五席

講中の碑は黒御影百合写す 古谷 彰宏

町の人々や、商賈仲間、色々の「講」を作つて御嶽神社へのお参りをします。終了には、そのお参りの「証」となる碑を建てるものです。沢山の碑のある中で、作者の目に止まつて生まれたのが、この作品です。黒御影石に刻まれた講中の碑。その傍で山百合が美しい花を咲かせていたのです。黒御影が鏡のように、百合が、どんなもんだと、一人じめにして映っているのです。

第四十三回

奉納俳句募集要項

- 一、作品は未発表に限る
 - 一、受付は指定用紙にて投箱へとする (郵送等直接の受付は致しません)
 - 一、締切り 平成二十八年一月十五日
 - 一、発表 平成二十八年三月中旬
- 四季を通じ「御岳山を題材」とした俳句を募集しております。
 大勢の方の投句をお待ちしております。

神社の杜(四十四)

御岳ピジターセンター 片柳 茂生

大工さんと左官屋さんは従兄弟？

御嶽神社に江戸時代から伝わる太々神楽。なんとと言ってもその花形は神楽を舞う舞人です。この神楽を習得するために年に一回、三日間の講習が行われ、若手神職は舞の通りから、手、足、頭の所作まで徹底的に先輩達から教わりま

す。集中して教えてもらえるのはこの期間だけ、後は舞台に出されてしまい、本番で舞いながら習得するという習わしです。そんな舞を習う傍らではもう一つの伝授も行われています。それは神楽に合わせる楽のお稽古です。こちらの裏方を楽屋と呼んでいるのですが、この楽屋も伝承するためまた必死なのです。何故なら譜面は無く、曲の全ては口伝によって習わなければならぬからです。

楽は、笛と大胴(太鼓) それと台拍子(大きな鼓)の三種の組み合わせです。それぞれのパートは江戸時代の昔より先輩から後輩によって受け継がれてきました。

神楽は現在十四座継承されており、曲の名称は必ずしもその神楽と同じではありません。サガリハとかオオミヤ、ナカトミノナガウタ

などと格好良い名称で呼ばれている曲もありますが、中にはオヒヤラヒヤなんて言うんだか訳の分らない曲もあるのです。

笛の口伝は、トヒヤロヒヤロトヒヤリトロとか、ピフーヒヤロピフーヒヤロ ピフーヒヤリトロピフーヒヤリトロ等、ほとんどどの口伝が擬音のような感じで表わされているのが普通です。しかし中にはちよつとかわつた口伝もあるのです。

それは台拍子の中の「本拍子」という叩き方です。本拍子とは色んな神楽に使われる基本の叩き方なのですが、擬音調で表すと「テンテコテンテコ テンテコンコテン」となります。このまま伝えればそれで良いのですが、もうひとつ別の口伝方法があるのです。



(イラスト 井口三月)

それは、「ダイクトシヤカントイツトコドウシン」、あるいは「ダイクトシヤンハイットコドウシ」の二通りが伝わっています。先輩達に聞いても、「俺は『ダイクトシヤカントイツトコドウシン』と教わった。「いやいや私は『ダイクトシヤカンハイットコドウシ』と教わった。」とまちまちです。でも漢字に直してみると、「大工と左官は従兄弟同士」となるように書いた違いは無いのです。でもこんな所にもこだわるのが口伝なのです。太々神楽の一番先に

必ず舞う「奉幣」はこの本拍子が使われますので、もしご覧になる機会がございましたら、口伝を台拍子に合わせて口ずさんでみて下さい。あなたはどっちだと思いませんか？でもほんとに昔は大工さんと左官屋さんは従兄弟だったのでしょうか？

*1 通り
舞い方や道すじ

表紙写真

「奉納剣道大会」

桜が咲き誇る春の日差しの中、剣士たちの勇ましい声が山に響き渡ります。毎年四月二十九日に、神社 大鳥居前広場において、中里介山作「大菩薩峠」ゆかりの「奉納剣道大会」が盛大に執り行われています。

未だ曾てあらず、まさに未曾有である雪で迎えた昨春、本年も多少の雪は有るが、無事に春の大祭の日を迎えられそうである。一面の雪の中で、緑を湛えた姿を山肌みせる神宿る木々。人には耐えがたい風雪の中

も倒れる事は無い。花のようは一瞬の華やかさを魅せる事も無く、物言う事も無い。ただ、絶えぬ緑を身にまとい数百年もの間、大地に根を張り力強く生きる。その姿を見て人は何を思うのでしょうか。俳句選者金子先生、東久留米市御嶽神社神山講並木様、上富上総講 鈴木様、崇敬者川合様、ピジターセンター片柳様には玉稿をありがとうございました。

平成二十七年 三月 八日発行
(年一回発行・非売品)

編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四三七八 八五〇〇
FAX 〇四三七八 九七四二

印刷 (株)成和印刷
http://www.musashitakejinja.jp/